

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2674100439		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勸修Ⅱ番館 1F		
所在地	京都市山科区勸修寺西金ヶ崎238番地		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=2674100439-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=2674100439-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年1月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館は3ユニット利用者27名、職員も20名を超える3ユニットのグループホームである。そばには川が流れており、散歩や外気浴など季節を感じられる環境の中にある。今年は毎年行っていた利用者、職員が交流出来るように2か月に1度のⅡ番館交流会、外食、外出、秋祭りが新型コロナウイルス感染症予防のため実施できないが、室内でも楽しめるような催しや季節感が感じられるようにご利用者とともに季節の張り絵、4月は大きな桜の木を飾りお花見を行ったり、裏庭で野菜を育て一緒に水やりや収穫をするなど工夫している。またⅡ番館新聞を各ユニットで毎月発行し日常生活がお伝えできるようご家族様に配布しています。日頃よりフロア内は手作りの壁飾りやカレンダーで季節感を出せるように心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは法人の「笑顔は人を幸せにする」という方針を基に笑顔を大切に細かい思いやりを持ちながら利用者に接するよう取り組んでいます。接遇面や身体拘束等においても利用者の尊厳に配慮しながら丁寧な対応をしており、毎月一人一枚は不適切ケアについてのヒヤリハットを提出し自身を振り返ったり、結果を閲覧しカンファレンスで話し合うなど職員の意識を高めています。毎月の行事以外にも利用者を楽しんでもらえるよう、日々のレクリエーションの中に風船バレーやしりとり、数字計算等の脳トレ、季節毎の作品作りも大きなものに挑戦するなど変化のある様々な企画に取り組んでいます。食事においてもフランクフルトやたこ焼き、散らし寿司等を屋台形式で提供したり、仕出し弁当を注文したり、パウンドケーキやドーナツ等手の込んだおやつ作り等食事が楽しめるよう工夫しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、毎日唱和することで共有化を計っている。事業所としても「笑顔とぬくもりのある穏やかな生活を支援します」の理念を各階入り口に設置しカンファレンスや日頃から話し合い共有、実践につなげている	事業所独自の理念は各フロアの玄関に掲示すると共に新任入職時や異動してきた職員に説明し意識付けを行っています。笑顔は人を幸せにするという当事業所の取り組みの下、笑顔を大切に細かい思いやりをもって支援していくことを目指しカンファレンス等で振り返り、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域の町内会に加入しており、回覧板の案内等により地域の行事情報を収集している。毎年、年1度の近隣保育園との交流や、GH主催の秋祭りで地域住民と交流を図っていたが新型コロナウイルス感染症予防により実施できず	保育園との交流や行事への参加等地域と交流をしていますが、コロナ禍においては回覧板により地域の情報を収集したり、敷地内の散歩時や玄関先での外気浴時に出会った方と挨拶を交わすなど地域との関わりを持つように努め、運営推進会議の構成メンバーである地域の方に電話をしたり、議事録等でホームの近況や取り組みを伝える等関係が継続するよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では現状を報告し地域の方々の意見を聴き、アドバイスをし合う関係性を築いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防により当事業所での開催は見合わせている。開催予定月に電話連絡にてGHの報告や地域での取り組み、行事情報を収集し議事録を送付している	会議は隔月に町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て身体拘束ゼロに向けての対策委員会を行ったり、運営状況や事故報告、行事報告等を行い意見交換をしていましたが、コロナ禍においては事前に電話にて意見を収集し議事録を作成し開催としています。コロナ感染症に関する情報やアドバイスをもらったり、地域の行事が中止となったこと等の報告を受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で地域の方々の意見を聞きアドバイスもするという関係性。市町村へは入退きの報告や運営推進会議の議事録を渡している	運営推進会議の議事録を直接届けており、様々な連絡等については法人の担当者を通じて報告を受けています。行政からのアンケート依頼への協力の他、注意喚起等が届いた場合は掲示するなど職員に周知しています。また、マスクや消毒液の配布を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、母体の研修があるも今年度はコロナ禍により動画視聴研修であり、視聴・伝達研修にて自己覚知を促している。また全職員へ身体拘束の自主点検のアンケートを年2回実施している。玄関は近頃の世情に合わせ時間を決めて施錠しているが中からは誰でも開けられる施錠方法	動画研修を受けた職員が内容を伝達し全職員がレポートを提出することで理解を深めています。行動を制止するような言葉かけが見られた場合は都度注意をしたり、毎月一人一枚不適切ケアについてのヒヤリハットを提出しそれについてカンファレンスで話し合う事もあります。全職員対象のアンケートに身体拘束に関するチェック項目があり、結果について回覧し振り返りを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、母体の研修がある。今年にはコロナ禍により動画視聴研修であり、視聴・伝達研修を行っている。毎月ひとり1枚以上の不適切ケアのヒヤリハットを提出し自己覚知や回覧・カンファレンスで振り返りや気づきにつなげ防止につとめている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には法人内外の研修への参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居相談センターの職員と管理者やリーダーが契約書を読み合わせ形で十分に時間をかけ説明して納得の上で入居となる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから意見を言い易い関係作りを目指して、利用者の情報が常に共有されるようにしている。アンケートを実施したり、意見箱を設けて匿名の意見が言えるように配慮している	利用者からは食べたい物や買ってほしい物等について要望があり、職員が買って来たり家族に伝えて届けてもらい、食べたいものについては献立等に反映しています。家族には毎月ホームの広報誌や手書きの手紙等を送付し利用者の様子を伝え、電話やアンケート、面会時等に要望を聞いています。出納帳の記入の仕方についての意見を受け検討し改善したり、面会時間や差し入れ等の質問については都度返答しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスで職員一人一人の意見を出し合ったり、議事録を作成して職員に回覧し意見を聞く機会つくりとしている。日頃より職員とのコミュニケーションの機会を作り気軽に意見を言えるように配慮している	カンファレンスや日々の業務、年2回の定期面談や随時の面談で職員からの意見や提案、希望を聞いています。カンファレンスに出られない職員は事前に書面で提出したり口頭で意見を聞くようにしています。カンファレンスの内容は利用者のケアについての意見が多く話し合ったり、誤薬の意見については薬の管理方法をフロア全体で統一したり、服用後、再度確認を徹底するなど業務改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートを実施し職員個々の給与水準や労働時間に対する思い、やりがいの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としてキャリアパス制度を確立し各職員の実際と力量の把握、力量に応じた研修がありモチベーションにも繋がっている。法人外研修への参加についても機会がある。法人内の研修内容は全職員に回覧している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での認知症サポーター講座を地域包括支援センター主導のもと他事業所と協力にて開催していたが今年度はコロナ禍により実施できず。法人を通じた勉強会や法人外の研修参加にて同業者と交流を行いケアの質の向上に取り組んでいる		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談センターの職員が入居前の段階で関わり、関係作りに務めており、得られた情報を共有している。GH職員同席の入所前の面談にて本人の要望を確認し、ケアプラン作成し、不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談センターの担当者が集めた情報と施設の担当者、入居前面談時の情報と共有することで関係作りにつとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の担当者が本人家族と面談し必要なサービスをみきわめている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感染対策のため、炊事への参加は自粛中だが、食器洗い、掃除、洗濯、共用部分の飾り付けなどご本人が一方向的に介護を受けるだけではなく、本人の有する力を探り、発揮できる機会づくりに努め、暮らしを共にする関係に取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行い、ビニールシート越しに面会を行っている。また、電話にて話をしてもらったり、面会時に撮ったご家族の写真を居室に飾っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人と電話や手紙を通じて関係性を継続出来るようにしている。馴染みの人について話題にし、思い出が薄れないように努めている。	入居前の面談で本人の馴染みの人や場所等を聞き、アセスメント用紙に記載し職員間で共有しています。往復はがきにて知人から便りが届いた場合は返事の投函をしたり、年賀状の返事を出す場合ははがきの準備や宛名書き、投函等の支援を行っています。孫の写真や以前によく行った場所の写真を見ながら会話をしたり、知人からの電話の取次ぎをする等馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の要望も含め、カンファレンス等を利用し席順やそれぞれの関係性など支援できるように職員が支援している。また他利用者が居室訪問したときはゆっくり過ごせるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か変化があればケアマネージャーより情報を提供してもらい、情報も職員間で共有して、退去後も本人・家族が気軽に相談してもらえるような関係を築くように心がける。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスでアセスメントを行い、各職員がC-1-2シートを作成することで本人の思いや隠された願いについて、考える機会を作り、情報共有している。	入居前に入居担当者と計画作成者が病院や施設等本人が暮らしている場所に出向き、面談を行い生活歴や意向、特技、趣味等を聞きアセスメントシートに記載し意向の把握に努めています。入居後は家族から聞いたり、日々の暮らしの中で様子や表情等からも汲み取り、介護記録に記載後、申し送り時やカンファレンスで話し合い職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を閲覧することにより情報収集し、これまでの生活歴や暮らし方、生活環境などの把握を努め、情報の共有を図る。また入居後も家族や可能な限り本人からも聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、日々記録を残すことにより、職員間で現在の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から気づいたことを職員間だけでなく、家族や他職種と共に共有し、意見交換した上で介護計画を作成している。	アセスメントや本人や家族の意向を基に作成した介護計画は初回は3か月、6か月、特に変化がなければ1年毎の見直しを行い、状況に応じて随時見直しを行っています。6か月毎に職員の意見を聞きながらモニタリングを行い、見直しの際は再アセスメント、サービス担当者会議を開催し、事前に聞いた家族の意向や医師の意見を反映させるようにしています。また、マッサージや訪問看護師や歯科の医師に必要なに応じて意見を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアの実践・結果・気づきなどを個別に記録に残し、職員間で共有する事によって介護計画の見直しやそれぞれの実践に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に柔軟に対応するように心がけていて、訪問マッサージの導入や出張散髪をとりいれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため、外出、散歩などが行えていないが、玄関前での日光浴の時など、十分な距離をおいたうえで、近隣の住民とあいさつなどを交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診医の訪問があり、電話対応、必要ときは緊急に往診していただいている。また本人やご家族の希望する病院に受診をする場合でも紹介状を書いていただいたりと適切に対応していただいている。	殆どの方が協力医に変更し月2回の往診を受けており、体調不良時は訪問看護師を通して連絡し受診や往診等の指示を受けています。他病院を受診の場合は協力医の紹介状をもとに受診しています。専門医への受診については職員が対応していますが、家族が同行することもあり職員のみの場合には口頭や書面で結果を伝えています。希望で訪問歯科を受けたり、協力医の指示によりマッサージを受ける利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の健康チェックを週1回受けており、24時間対応で電話相談し指示を受けている。体調不良の際は早期に受診や医師への連絡につなげるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となったときは介護サマリーを作成し情報を共有している。入院中はこまめに病院相談員と連絡を取り、情報収集や早期退院につなげ、その情報を職員間で共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・看取りの指針について説明を行い、利用者の状態が重度化・終末期に近づいてこられた時には改めて説明し、医師・看護師を交えて話し合いの場を設けている	入居時に看取り指針を基に説明を行い、重度化した場合は職員から家族に説明し、医師や看護師と共に4者で話し合い方針を決めています。以前に看取り支援をした際は付き添いなどの家族の協力を得ています。支援後は振り返りを行い、年1回法人主催の看取り支援の研修を受けた職員が全職員に伝達し学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時マニュアルがあり、全職員が普通救急救命講習を受講しており、1F玄関にはAEDを設置し発生時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	約2ヶ月に一度のペースで事業所内での避難訓練を実施して災害時に備えている。その内の年2回消防署の立会いで日中、夜間想定の実践訓練を実施している。	コロナ禍以前は年2回消防署立ち合いの下屋夜間想定の実践訓練や年4回事業所独自の訓練を行い運営推進会議で案内や報告、参加依頼をしており地域の訓練にも参加していました。今年度は年6回独自の訓練を行い外のたばこの吸い殻回収、コンセントの埃や車いす利用者の名簿の確認等を行っています。また飲料水や缶詰等を備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳に配慮した言葉かけや関わりができるように十分注意している。事業所の研修やGH内の毎月のカンファレンス時にも職員お互いに注意したり、常に気をつけている。	接遇マナー等に関する研修を受けた職員が伝達し周知しています。利用者の尊厳に配慮しながら堅苦しくならないようその時々状況に合わせた言葉かけを行い、声のトーンに気を付けながら耳元で話をするようにしています。毎月言葉かけ等に関する気付きをヒヤリハットとして一人一枚は提出しカンファレンスで話し合い結果を回覧したり、法人の自己評価のセルフチェックをしながら自身を振り返る機会も作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の個別ケアに努めている。日々の関わりの中で得たヒントなどを記録に残して職員で共有している。また日々の中で飲みたい物、食べたいものを選んでいただく機会がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまのペースを一番に考え、日々の関わりの中で利用者さまの希望を聞き取りながらご本人本位の個別ケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える服や入浴時など一緒に居室で希望の服を選んでもらっている。化粧水、乳液などはその人が長年使用していた物と同じメーカーの物を購入するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は冷蔵庫をみて何が作れるのか、何が食べたいのかの話から始まって食べたいものを皆で話し合っ決めていく。感染予防対策により一緒に作ったり、面前調理は自粛中だが下膳・食器洗いなど片づけは共に行っている	三食の内一食は出来上がったものが届き温めて提供し、他の二食は旬や利用者の好み、行事食等に配慮しながら当日に在庫を見ながらメニューを決めています。秋祭りにはフランクフルトやたこ焼き、ちらし寿司等屋台風にしたり、仕出し弁当等を取るなど変化のある食事を企画楽しんでいきます。パウンドケーキやクレープ、ドーナツ等手作りおやつも楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや好き嫌いなどを考慮し、一人ひとりに応じた食事を提供している。嚥下の悪い利用者さまには水分はトロミをつけて、食事はブレンダー一食で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に歯磨きの声かけや口腔ケアを行っている。また希望者には週1回歯科衛生士による口腔ケアもあり、磨き残しの指示があった方には仕上げを職員が実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行っている。自分のできる事は支援をおこない尊重している。	日々の介護記録により排泄パターンを把握し表情や仕草を見逃さず声かけやトイレ誘導し失敗が減るよう支援しており、パッドの交換回数が減ったり小さいものに変更する等改善が見られた利用者もいます。日中は座位が保持できればトイレでの排泄を支援し、車いすを立ち上がりやすいように置いたり、アームサポートを持ちながらしっかり立てるよう工夫をしています。排泄用品の種類や支援方法については担当者と相談したりカンファレンスで話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面や水分補給の配慮、適宜な運動を取りいれ、自然な排泄につながるよう取り組んでいる。なかなか排泄につながらない時は往診医と相談し内服でのコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日を決めずに希望に応じて入浴機会を提供している。利用者さまそれぞれに合わせて入浴を楽しめるように配慮している。	入浴は週2回以上主に午後に支援しており希望により回数を増やすことも可能です。湯は一人ひとり交換し、シャンプーやリンス等好みの物を持参したり柚子風呂や入浴剤を個々に合わせて使用しています。拒否がある場合は今までの成功例を情報共有したり、毎日声をかけタイミングが合った時に入ってもらったり、職員を変える等無理のない入浴に繋げています。入浴中は職員との会話が弾みゆっくりと入る利用者もおり、入浴後は好みの飲み物を提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を気をつけたり、適宜な運動を取り入れたりしながら安眠できるような環境を提供している。また日中の休息についてはその時の体調に配慮して必要に応じて取り入れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回出る処方箋に職員が目を通し、その薬の目的や副作用などを理解している。また主治医と相談し、症状の変化があった場合は速やかに報告している。服薬管理についてはマニュアル通りに確実に実行されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを行い一人ひとりが役割を持って喜びや楽しみのある生活ができるように介護計画に提案しその利用者らしい生活ができるように支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ個別に外出していたが新型コロナウイルス感染症対策のため実施できない。敷地内の駐車場や玄関前ベンチ、ペランダでの日光浴など法人の感染症マニュアルに添って可能な限りの範囲で外との関わりにつなげている	地域の行事への参加や自宅に帰ったり墓参り等に出かけていましたが、コロナ禍においては広い敷地内を利用し散歩をしています。玄関先のベンチで外気浴をしたり、花の水やり、ゴミ出しをする等少しでも外気に触れる機会を作っています。収束後は多くの外出行事の企画をし取り組んでいきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族から預かっており、必要な場合についてはそこから利用者に自由にお買い物している。今年はコロナのため職員が購入支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかってきたときは利用者に取り次ぐこともあり、ご本人の希望でかけたりすることもある。携帯電話を持っている利用者が自室で家族からの電話を受けられるように電話操作を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節に応じて飾り作りを一緒に行い飾っている。週1回お花の配達があり、利用者が生け見えるところに飾り、季節感のある心地よい空間づくりを心がけている	生花を利用者に週1回活けてもらったり季節毎の作品を壁に飾り季節を感じてもらっています。食卓から離れた場所にソファーや椅子を置くなど数人や一人で過ごせるよう工夫し、畳コーナーに腰をかけ過ごす利用者もおり、テーブル席については利用者の相性等配慮しながら変更することもあります。毎日掃除や換気を行い、利用者の体感も聞きながら温湿度にも留意し快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下の一角にイスなどを置くことによりどこにでも座って職員と話したりできるように配慮している。和室のたたみのところにも気軽にこしかけられるようスペースをあけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器類は入居時に持参していただくようお願いをして、利用者さまが自らの家と思って過ごしてもらえるように配慮している。また家族との写真やご本人作成の手芸作品なども飾っている。	入居時にタンスやテーブル、椅子、テレビ、ちゃぶ台等馴染みの家具を持参してもらい家族と相談しながら配置しています。師範の看板やトロフィー、仏壇、遺影、家族の写真等大切な物や自身のビーズの作品、趣味の本など傍に置きその人らしい居室作りに努めています。換気や掃除は職員が行い畳部屋についてはほうきで掃除をする利用者もいます。日々自分の歩いた歩数を記録する利用者もおり生活習慣を大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握しご本人の思いに添えるよう工夫しながらも、安全に生活が送れるよう家具やベッドの配置を考えたりしている。		